

搾乳関連施設由来排水処理装置の実証試験スタート

搾乳関連施設から排出される搾乳関連排水には、機器洗浄用の次亜塩素酸ナトリウムが混入しているため、汚水処理法として広く用いられている微生物を利用した活性汚泥法が適用できません。

そこで、当センターでは R2 年に実験室内で、L-アスコルビン酸を添加することで次亜塩素酸ナトリウムの濃度がほぼ除去できることを確認したところです。

今回、当センターに先の試験の成果を元にタイマーなどを用いて自動運転できる実証試験用の搾乳関連排水処理装置を設置し、実証試験をスタートしました。

今後、1 年を通して稼働させ、処理水の水質検査を実施し、処理装置が正常に処理できることを確認後、設置及び運転方法のマニュアルを作成し、普及していく予定です。



搾乳関連排水処理装置